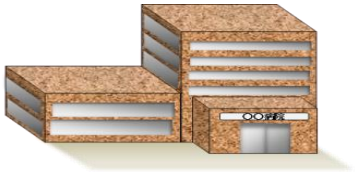
笠岡市立市民病院と福山市民病院の連携について

基幹病院以外



笠岡市立市民病院

1．急性期から回復期等への機能転換等

	～Ｒ２年度	Ｒ３年度～	Ｒ９年度～
高度急性期	０床	０床	床
急　性　期	１６０床	６０床	床
回　復　期	０床 ⇒	０床 ⇒	床
慢　性　期	３４床	３９床	床
合　　計	１９４床	９９床	９９床

病床機能転換を検討

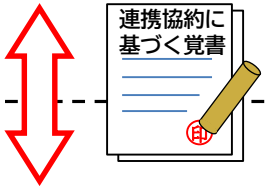
・急性期病床の減床、今後の回復期病棟への転換を検討
・産科セミオープンシステム連携（笠岡市立市民病院の妊婦健診（産後健診含む）再開）

2．基幹病院からの術後患者の受入体制構築

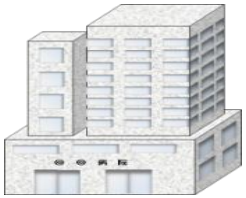
・回復期病棟で術後患者等を受け入れるなど回復期機能を強化
・福山市民病院からの医師派遣等を活用した受入体制の構築

3．医療情報の共有

・「HMネット」を活用した情報の共有化
・遠隔分娩監視システムの活用による緊急時の対応強化



基幹病院



福山市民病院

1．急性期機能の集約

・救急外来機能、手術室の増設など、笠岡地区の急性期機能の一部を担う体制整備
・RALS、ハイブリッド手術室など、高度専門医療機器を整備
・総合周産期母子医療センターの指定を目指し、NICU、GCU、MFICUを整備

※急性期機能の集約による病床数の変更はない

2．診療支援等

・医師を新規派遣し、笠岡市立市民病院が担う医療機能の維持を支援
・助産師派遣や遠隔分娩監視システムの導入で笠岡市立市民病院の妊婦健診再開を支援
・産科セミオープンシステム連携（妊婦健診は笠岡、分娩（ハイリスクを含む）は福山）

3．医療情報の共有

・「HMネット」を活用した情報の共有化
・遠隔分娩監視システムの活用による緊急時の対応強化

【資料4】